中日友好21世紀委員会
中国側座長 唐家璇氏
委員 葉小文、周明偉、魏家福、薛偉の各氏に
『人民中国』2012年4月号『特別企画』
独占インタビュー

九州の教授による講演を南開大学で開催

日本「五星奨——中国語教育推進会」の葉言材・幹事長(日本北九州市立大学中国学科教員)の推薦になり、中国南開大学「中国古典文化研究所」の葉嘉莹・所長に招かれ、国立長崎大学の連清吉教授と九州大学の東英寿教授は3月2、5日、同大学文学学院の生徒に、「日本中国学研究紹介」と「欧陽修の書簡96通からの発見」というテーマで講演を行い、大きな反応を呼んだ。

東英寿教授(右)と葉嘉莹所長

質問に答える東英寿教授(左1)

東教授は大学時代から30年近く中国・北宋の文人、欧陽修(1007～1072)の研究に取り組んでいる。2011年、東教授は日本天理大学図書館に所蔵されている『金沢文庫』から中国で散逸していた欧陽修の書簡96通を発見した。同年10月、日本の「中国学会」にこの研究成果を発表し、中日両国の学術界を沸き立たせた。日本の各マスコミ及び中国の新華社、『人民日報』、『光明日報』がこの発見を報道した。

東教授は講演の中で、新しく発見された欧陽修の書簡96通が後世に伝わらなかった原因などを紹介した。「これらの書簡は当時、中国においてある程度伝わったが、戦争などの原因で、『欧陽文忠公集』には収録されなかった。新しく発見された欧陽修の書簡96通は『全宋文』の補遺に重要な意義がある」と語った。

連、東両教授の講演は、中国駐日本福岡総領事館に注目され、中国の若手学者に深い印象を残した。